

績を収め、関東大会に出場しました。関東大会に出場した部活動の先生や選手にインタビューしました。



2年連続7回目の出場

男子ソフトテニス部

雰囲気圧倒された 関東大会

高校1年生からペアを組む江原由起さんと廣瀬新太さんにペアとして初めて出場した関東大会について感想を伺うと「雰囲気圧倒された」と話していました。普段練習する相手とは違い、県外選手は最初からガツガツ攻めてくる選手が多く、いつも対戦する選手とのプレースタイルの違いに圧倒されたそうです。そのようなときでも声を掛け合い、お互いを鼓舞してプレーしました。また、顧問の内田先生からも「しっかりやることやろう。あとは自分たちを信じてプレーしろ。お互いで話し合っ
プレーしろ」と言われ、この大会の重要性を感じたそうです。



廣瀬さん(左)と江原さん(右)

コロナ禍で時間が減っても質を高めて

2人が入学したときは、コロナ禍で練習時間も制限され、思うように練習ができず、モチベーションも下がる中、試合で実力を発揮できるのが不安だったそうです。半日の練習でも集中して練習し、練習の質を高めるように工夫しました。また、練習ができない他校の話も聞き、練習できる環境に感謝し自分も一生懸命やらないと感じたそうです。
「剛毅果断(思い切っ
て決断すること)」の精神は新チームにも受け継がれています。



2年連続7回目の出場

男子バドミントン部

関東大会で結果を残すことが目標

関東大会に出場できたのは、部員全員が「出場したい」ではなく「必ず出場する」という強い気持ちで闘った結果と話しています。昨年と比べても、一人一人が勝ちにいく気持ちが強く、がむしゃらに練習し、試合に挑んだ結果でした。顧問の花村先生も「冬の練習メニューを自分たちで考えたいと話したのは、この世代が初めて。それだけ勝利への執着が強いのではないか。」と話し、与えられたメニューだけでなく、強くなる方法を選手自身が考え、実践したことが結果につながりました。
現在は、1・2年生を中心とした新チームに変わりましたが、先輩たちの勝利への執着心を受け継ぎ、来年度は関東大会上位進出と全国インターハイへの出場を目指して練習しています。



3年ぶり4回目の出場

女子バドミントン部

どんなに辛くても笑顔を絶やさない

昨年関東大会出場が叶わず、その悔しい思いを糧に練習に励み、今回の結果につながりました。
部の特徴は、「練習中も試合中もどんなに辛くても笑顔を絶やさない」こと。キャプテンは気持ち下がっている人には声をかけるなど、部の雰囲気づくりを意識していたそうです。また、顧問の只木先生も壁がなく親しみやすい雰囲気を作ってくれています。最後の大会では「試合は楽しんだもん勝ち」と声をかけたことで選手も思い切っ
楽しんで試合できたそうです。
3年生は1・2年生たちに向けて「試合に出られることが当たり前だとは思わずに、感謝の気持ちを持って全力でやってほしい。」と話していました。また、今後について先生は、来年も関東大会出場を目指しつつ、インターハイ出場を目指したいと話していました。

